

社会福祉法人 健誠会

令和3年度 事業報告

令和4年6月

1. 法人の概要

(1) 名 称 社会福祉法人 健誠会

(2) 事務所の所在地 茨城県つくば市大曾根 3690

(3) 設立認可年月日 平成 13 年 10 月 16 日

(4) 事業の概要

○ 第一種社会福祉事業

- ・ 特別養護老人ホームの経営
- ・ 障害者支援施設の経営

○ 第二種社会福祉事業

- ・ 老人デイサービス事業の経営
- ・ 老人短期入所事業の経営
- ・ 障害福祉サービス事業の経営
- ・ 一般相談支援事業の経営
- ・ 特定相談支援事業の経営
- ・ 障害児相談支援事業の経営

(5) 役員・評議員（令和 4 年 3 月 31 日現在）

【理事長】 市原万里子

【理 事】 細田市郎 大沼勝美 川村晴一 稲葉一行 大島茂則

【監 事】 馬場清康 森田里美

【評議員】 林浩一郎 鈴木富士雄 松宮洋子 久野まち 柿沼宜夫

藤田萬豊 塚本洋二

(6) 理事会・評議員会・評議員選任・解任委員会の開催状況

理事会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議案名
2021.6.10 (2021.6.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度決算 ・令和2年度事業報告 ・苦情解決のための第三者委員選任について ・社会福祉法人健誠会役員候補者について ・評議員選任・解任委員の選任について ・社会福祉法人健誠会評議員候補者について ・永福南社会福祉ガーデン施設長任免について ・定時評議員会決議の省略、議案の決定について
2021.6.30 (2021.7.12)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長選定について
2021.8.2 (2021.7.30)	<ul style="list-style-type: none"> ・役員等賠償責任保険契約について
2021.9.15 (2021.9.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアガーデン 運営規程の変更について ・シニアガーデンアネックス 運営規程の変更について ・つくば総合福祉センター・シニアガーデンアネックス空調設備更新及び調理室空調設備増設工事について
2021.12.13 (2021.12.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度下期補正予算 ・介護に関する個人情報開示の規程について ・評議員会決議の省略、議案の決定について
2022.3.18 (2022.3.10)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度補正予算 ・令和4年度事業計画 ・令和4年度予算 ・評議員の選任・解任手続等を定める運営細則の変更について ・評議員会決議の省略、議案の決定について

評議員会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議 案 名
2021.6.22 (2021.6.17)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度決算 ・ 社会福祉法人健誠会役員の選任について
2021.12.23 (2021.12.15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度下期補正予算
2022.3.29 (2022.3.22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度補正予算 ・ 令和4年度事業計画 ・ 令和4年度予算

評議員選任・解任委員会の開催状況

開催年月日 (通知年月日)	議 案 名
2021.6.17 (2021.6.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評議員の選任について

(7) 施設・職員数・定員

令和4年3月1日現在

施設名	施設長・管理者	職員数		利用者定員
シニアガーデン	宮本直美	常勤 非常勤	62名 11名	50名(入所) 20名(短期入所) 35名(通所) 29名(別館入所)
シニアガーデンアネックス	岡田満博	常勤 非常勤	43名 11名	29名(入所) 20名(短期入所) 35名(通所)
居宅介護支援事業所 シニアガーデンアネックス	浅井太陽	常勤 非常勤	6名 0名	
つくば総合福祉センター	篠崎純一	常勤 非常勤	31名 12名	40名(入所生活介護) 20名(通所生活介護) 4名(短期入所)
一般・特定障害者(児)相談支援 事業所サポートプラザつくば	篠崎純一	常勤 非常勤	5名 0名	
知的障害者グループホーム 六本木ヒルサイドホーム	藤田陽	常勤 非常勤	2名 7名	10名(共同生活援助) 2名(短期入所)
特別養護老人ホーム 永福南社会福祉ガーデン	蓮見雄一	常勤 非常勤 派遣	28名 6名 18名	70名(入所) 10名(短期入所)
障害者支援施設 永福南社会福祉ガーデン	蓮見雄一	常勤 非常勤 派遣	12名 8名 2名	12名(生活介護)
特別養護老人ホーム 南麻布シニアガーデンアリス	上田文代	常勤 非常勤 派遣	39名 4名 16名	100名(入所) 10名(短期入所)
港区立障害者支援ホーム南麻布	大島茂則	常勤 非常勤 派遣	34名 4名 9名	40名(入所支援) 40名(生活介護) 4名(短期入所)
港区立障害者支援ホーム南麻布 障害者(児)相談支援事業所	高須賀潮理	常勤 非常勤	2名 0名	

(8) 地域における公益的な取組

「地域の方と交流」事業

大曾根上構造改善センターを主な会場として、地域の高齢者を対象に、無料で体操・介護相談・折り紙・クイズ等の活動を実施。

実施日	参加人数	主な活動内容
令和3年 6月27日	15名	認知症の説明、折り紙、全身ストレッチ
7月11日	17名	数字ゲーム、タオル体操、炭坑節/玄太温度
10月24日	20名	秋の大運動会（ラジオ体操、間違い探し、ブロック運び）、介護相談
11月28日	18名	ハンドマッサージ、ラジオ体操、歌（お座敷小唄、ボケない小唄）、ゲーム、介護相談
12月26日	15名	脳トレ、指体操（ストレッチ）、プレゼント交換ゲーム、歌（お正月）
令和4年 1月23日	0名	コロナ感染予防のため中止
2月27日	0名	コロナ感染予防のため中止
3月27日	0名	コロナ感染防止のため中止

※ 社会福祉法第24条2項（社会福祉法人は、社会福祉事業及び第二十六条第一項に規定する公益事業を行うに当たっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するように努めなければならない。）

令和3年度事業報告（施設名 シニアガーデン・別館）

事業所名	定員	稼働率
特別養護老人ホーム シニアガーデン	50名	97%
短期入所生活介護事業所 シニアガーデン	20名	80%
通所介護事業所 シニアガーデン	35名	57.4%
地域密着型小規模特別養護老人ホーム シニアガーデン別館	29名	96.2%

事業の概要

<シニアガーデン本館入所>

利用者の入院数が平均1～2名と減少しています。昨年に続き利用者の入退所は多い状況ですが、稼働は昨年より上回っております。施設内で治療する方が増加しています。空床期間はロングショートからの異動のため短縮されています。引き続き入院に至らないように多職種で連携し96%の稼働をめざします。

<短期入所（ショートステイ）>

稼働は昨年より大きくしたまわっています。ロングショート18床の調整が難しく、稼働に影響しています。入所への異動により、新規でのロング受け入れのため調整に時間を要してしまっています。そのため18床の維持ができませんでした。緊急の受け入れは引き続き積極的に行い地域に貢献していきます。

<通所介護（デイサービス）>

新型コロナウイルスの影響で利用を控える方もおり、目標に達せず57.4%でした。電話、FAXで営業を行いましたが、新規の利用も少ない状況でした。年度末になって新規の相談も増えてきているので、引き続き空床を居宅事業所へFAXするなど営業活動を行っていきます。またカレンダーやPRのチラシの見直しもしていきます。

<地域密着型小規模特別養護老人ホーム>

入院者や、看取りの方もおり、また施設で治療する方も多い状況でした。しかし昨年度より入院者も少なく稼働は昨年度より上がっております。引き続き稼働率96%を目標にケアの充実を図ってまいります。

令和3年度事業報告 (施設名 シニアガーデンアネックス)

事業所名	定員	稼働率
地域密着型特別養護老人ホーム	29名	98,9%
短期入所生活介護	20名	82,5%
通所介護	35名	85,7%

事業の概要

<地域密着型特別養護老人ホーム>

入所待機者の複数人維持が安定して保てたことで、空床期間を最小限にすることが出来ました。ご入居者受け入れ時の周知事項を、職員間で共通認識を持ちながら、病院・ご家族・行政等への連絡相談体制も整え実践しております。ご利用者様の対応につきましては嘱託医とも連携を密にとり、事故防止・体調の変化に素早く対応できる様取り組んで参ります。

<短期入所生活介護>

ロングの利用者確保を積極的に行ってきましたが、入所へ移動された方が非常に多くなり、13床程度のロングショート利用者の継続維持となり十分な稼働数値確保が出来ませんでした。今後は、各方面と連携を図りながら緊急の受け入れも感染対策を十分に行いつつ引き続き積極的に行い、地域のニーズに応えて行きます。

<通所介護>

新規のご利用者様獲得と現在ご利用されている方の増回推進の取り組みに注力し、コロナ禍での自粛や休止が相次ぐ中で前期に近い稼働率を保つ事ができました。今後も、新規ご利用者様の確保と万全な感染対策を行い、柔軟にご利用者様の対応が出来る様に取り組み、地域の皆様に貢献出来る様にして参ります。

<その他>

感染症対策では日々変わる状況の変化に柔軟に対応し、地域交流の場と機会を増やせるよう取り組んで参ります。

令和3年度事業報告（施設名 アネックス居宅）

事業所名	定員	稼働率
居宅介護支援事業所 シニアガーデンアネックス	ケアマネージャー 6名	100%

事業の概要

ケアマネージャー6名体制（内4名は主任介護支援専門員）で活動し、1名は外部組織の主任介護支援専門員連絡会の役員を務めました。

令和3年度は介護支援専門員更新研修Ⅱ2名、主任介護支援専門員研修1名が受講修了しております。

【連携】については、コロナの状況により直接対面での対応が難しい時期もありましたが、間接的な方法で適宜相談や情報共有を行いながら、利用者様が安心して在宅生活が継続できるように努めました。また、オンラインによる外部会議や研修へ積極的に参加し、他事業所との意見交換、連携の機会を持つことができ、顔の見える関係作りを意識して連携強化を図りました。

【環境整備】については、コロナ感染対策の徹底と状況により利用者宅訪問や会議等の対面以外の方法を取り、ご利用者様や関係者の安全を第一に考えて行動しました。また、オンラインによる研修等の参加により、ケアマネージャー個々の自己研鑽・資質向上の機会を確保することができました。

【健全な運営】については、ケアマネージャー1人当たりの適切な担当人数や特定事業所加算Ⅱの算定要件を踏まえながら年度平均稼働100%となり、安定した稼働を維持することができました。冬場の稼働低下傾向を見据えた運営を行い、冬場に稼働が低下しなかったことが安定稼働の要因になったと思います。

稼働が安定している分、全体的に業務量が多い状況が続いているため、一部のケアマネージャーに負担が偏らないよう調整し、質の高いケアマネジメントを提供しながら、今後も稼働の維持を図り、ご利用者様やいはらグループ、近隣地域へ貢献していきたいと思っております。

令和3年度事業報告（施設名 つくば総合福祉センター）

事業所名	定員	稼働率
つくば総合福祉センター 入所	40名	97%
つくば総合福祉センター 通所	20名	84%
つくば総合福祉センター 短期入所	4名	70%
つくば総合福祉センター 日中一時預かり	5名	74%

事業の概要

【入所】

利用者様の健康管理に重点を置いた対応（嘱託医との連携強化・バイタル異常時の早期対応等）を行ったことで、長期入院を防止し、安定した実績を保つことができました。利用者様の重度・高齢化が進んでいるため、長期入院・死亡退所が増加する可能性が高くなっております。急な退所に備え、待機者に当施設の短期入所等のサービス利用を勧めていき、スムーズな入所につなげ、実績の低下を防いでいきます。

【通所】

コロナ感染症の蔓延状況による利用控え、職員のコロナ感染による事業休止があり、実績の低下が見られました。コロナ感染症の流行状況により、今後も実績が不安定になることが予測されます。職員に対する感染症対策の定期的な研修や、嘱託医と連携した利用者様の体調不良時の検査体制の構築を行うことで感染症対策を強化し、安心して利用できる点をアピールしていきます。

【短期入所】

稼働については、前年度と比較すると15%程度増加していますが、通所と同様の理由（コロナ感染症による利用控え・受け入れ制限等）により予定実績には届きませんでした。今後、職員のコロナ感染が確認された場合、利用者様にご不便をかけないためにも、早期に事業を再開する体制が必要となります。マニュアルの再整備、緊急時の職員配置の見直しを行い、事業の安定化を図ります。

【日中一時預かり】

新規利用者が増加しており、稼働は増加傾向となっています。単発利用から定期利用へつなげることで、更なる増加が見込めるため、施設利用に慣れてきたタイミングで定期利用への切り替えを積極的に行っていきます。また、当施設の単価の高い別サービスにつながっているケースも多いため、契約者数増加を目的とした営業活動を行っていきます。

令和3年度事業報告（施設名 サポートプラザつくば）

事業所名	実績	稼働率
特定相談支援事業・障害児支援事業(計画)	227件	115%
特定相談支援事業・障害児支援事業(モニタリング)	785件	102%
一般相談支援(地域移行支援・地域定着支援)	1件	-
つくば市障害支援区分認定調査(つくば市委託)	23件	-

事業の概要

【特定相談支援事業・障害児支援事業】

障害福祉サービスを利用希望する方が対象となっており、困難ケースを受け持つ数も年々増えております。突発的な対応も多く、苦慮する場面もありますが、関係機関と密に連携を図り、様々なトラブル等のリスク回避に努めております。また、事業所内ではケース検討、障害に対する理解を深められるよう研修などを通して、障害特性に応じた支援の提供と質の向上に取り組んでおります。

つくば市においては、若い世代の人口流入が増加しており、児童福祉サービス利用数も急激に増加しております。児童相談稼働率を上げることをつくば市でも重要課題として、取り組みを行なっておりますが、対応が追いついてない現状があります。課題解消を図るべく、児童の新規相談についても、随時、対応数を上げられるよう調整を図っております。

対応数が増えるごとに書類作成などの事務負担が増えています。相談対応に力を注げられるよう、事務負担軽減や、その他業務のスリム化を図ることが、当事業所の最重要課題となっております。また、コロナウィルス感染に関しては、Web上での面談や会議参加にも相談員各々慣れてきました。しかし、先行きの見えない不安から、突発的な相談対応が多く入る事や、行動制限解除後は、止まっていた支援が一斉に動き出す傾向があり、定期支援にプラスしての対応が発生することから、これまで以上にスケジュール管理スキルも求められています。相談員のスキルに応じて、管理能力にばらつきがあるため、突発的な出来事にも落ち着いて対応に当たれるよう改善を図っていきます。

【一般相談支援】

一人暮らしを行なう(または退院後に行う予定の)精神障害者が地域で生活を構築するためのサービスです。今年度の対応は1件となっておりますが、精神科病院の入院を繰り返す方や日常的に不安を抱えながら生活されている精神障害者が多くいるため、令和4年度はサービスに繋げていき、障害を抱えた利用者が地域で安心した生活が送れるよう支援していきます。

【つくば市障害支援区分認定調査(つくば市委託)】

認定調査については、相談支援専門員2名で対応に当たっております。

その他、つくば市において進められている地域支援拠点の整備や、基幹相談支援センターという、つくば市の中核的な相談業務についても役割は年々大きくなっております。地域の動向に応じ、多角的な視点で幅広く対応ができる相談支援事業所を目指し、今後も業務に取り組んでいきます。

令和3年度事業報告（施設名 六本木ヒルサイドホーム）

事業所名	定員	稼働率
共同生活援助(入居)	10	100%
短期入所(ショートステイ)	2	13.5%

事業の概要

・共同生活援助(入居)は現在満床で推移しております。

令和4年2月に職員2名が新型コロナウイルスに感染し同時に通所先でも感染が蔓延した影響で、自宅へ外泊する利用者様が多く見られました。

3月以降は再びGHで過ごされる利用者様が増えており、入居に関しては落ち着いております。

・短期入所(ショートステイ)は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い利用者様の自粛によるキャンセルが相次いでおり、実稼働率が下がっています。

新規の短期入所利用希望者は数名獲得していますが、未だ定着していない状況です。

今後は既存の利用者様へのお声かけを行うことで稼働率を向上させていきます。

・障害者福祉事業所の運営に関しては、引き続き預かり金等の取扱に重きを置き透明性の高い健全な運営を目指し、利用者様・ご家族様との信頼関係の構築を目指します。

現在は月に一度GH内の職員2名での貴重品・金銭の確認を行い、外部の目を入れる為二か月に一度は経理職員に協力を仰ぎ金銭の確認を行っています。

また、他事業所にもご協力いただき社内研修を充実させることで、人材育成にも注力していきます。

令和3年度事業報告（施設名 永福南社会福祉ガーデン）

事業所名	定員	稼働率
永福南社会福祉ガーデン（特養）	70	95.8%
永福南社会福祉ガーデン（入所支援）	10	97.6%
永福南社会福祉ガーデン（生活介護）	5	71.5%

事業の概要

永福南社会福祉ガーデン（特別養護老人ホーム）

今年度、稼働につきましては、利用者待機者ができず稼働低下に繋がってしまった。また、入院が重なることで稼働の低下となった。

次年度につきましては、毎月の利用者声掛けの実施の前にご家族の申し込みの際から入所についての説明を取り入れていく。入院については看護師を中心として事前対応をおこなっていく。

また、コロナ感染症対策の取り組みとして面会の方法等改善しマニュアルも改訂していきながら家族も職員も少しでも安心頂けるようにケアに取り組んでいく。

永福南社会福祉ガーデン（入所支援）

年明けに1名退所となってしまったがその後の退所なく大きな実績低下にはならなかった。しかし、入所までの期間がかかってしまうため今後も区と連携を取りやすくするため名簿などの調整等連絡を取り合う様にしていく。

また、次年度は4つの重点項目として（カンファレンス・介助マニュアル・活動提供・研修）の充実を図り実践に役立てていく。

永福南社会福祉ガーデン（生活介護）

コロナ感染症数の増加に伴い医療的ケアの方が長期自宅療養となり実績低下となってしまった。コロナ渦による活動制限も多くなってしまうが、次年度は、稼働率の向上に対して、永福学園の生徒受入を積極的に実施していく。

令和3年度事業報告（施設名 南麻布シニアガーデン アリス）

事業所名	定員	稼働率
南麻布シニアガーデンアリス （特養・地域密着型特養・短期入所空床型）	100名	81.4%

事業の概要

令和3年度の稼働率は特養・地域密着特養・空床型短期入所の合計で79.3%からスタートし、年度末では84%となりました。

港区の特養入居申し込み名簿は、既に港区入居基準をもとに優先順位が決まっており、施設に公開された名簿の順番通りにお声がけするルールに則り、必要な手順を踏みながら入居調整をしております。

上期は開設後の体制整備が完成しない中で多くの方に入居して頂いていたところ、ミスやトラブルなどが生じ、見直しや修正をしながら進めました。8月には新型コロナウイルス感染第5波のクラスターが発生し2名の方がお亡くなりになったため、新たな受け入れを中止し隔離など保健所等と相談しながら対応し、2か月後より慎重に再開をいたしました。

下期は職員の交代を重ねながら短期入所を含めて新たな受け入れをすすめ、1月からの新型コロナウイルス感染第6波を感染対策強化した職員とともに乗り越え、3月末では稼働しているユニットの空床は4床となりました。短期入所についても緊急の相談に応じたことなどから、新規利用者に繋げることができました。

令和4年5月には新たに1ユニットをオープンし令和4年度上期の申込名簿より入居をご案内しており、6月末までの満床を目指します。

また、R3年度は入院される方が増えた月があり、年間の入居者数27名に対し17名の方が入院中を含め、看取りや急変などにより退居されたため、年間の稼働上昇が伸び悩みました。持病の悪化や予期しない疾患による入院をはじめ、誤嚥性肺炎などによる入院もありましたので、施設内での研修やケアの見直しを行い、年間の入院を20%程度減らすことをR4年度の目標に掲げ、取り組んで参ります。

職員確保も難しい地域とも言われておりますが、施設内で就職面接会を開催することができたことなどから、ハローワークや各種学校へのアプローチなどとともに継続して実施し、積極的な採用活動を進めます。また、“働きやすい環境づくり”をすすめて参ります。3月には“カスタマーハラスメントの方針”を施設内に掲示し、主に窓口となる相談員やケアマネジャー、現場の介護職員の定着を図ります。

令和3年度事業報告（施設名 港区立障害者支援ホーム南麻布）

事業所名	定員	稼働率
施設入所支援	40名	85.5%
生活介護	40名	85.5%
短期入所	4名	22.5%

事業の概要

【入所】

現在、40名中35名の入所者が在籍しております。残り5名については港区と相談しながら決定していく予定です。当施設は医療的ケアが行える施設となっております。現在、胃瘻の入所者2名を受け入れておりますが、今後については、在宅酸素、吸引などの利用者も受け入れていきたいと考えております。医療的ケアについては看護師・支援員の研修等を計画し、実施してまいります。

コロナ感染症についてですが、2月に26名がコロナ感染症に感染し、落ち着くまでに1ヶ月がかかりました。今後もコロナ感染症予防対策を実施してまいります。

【生活介護】

生活介護は入所者が対象となっているので現在35名です。入所者を増やすことで生活介護の人数も増加してまいります。

【短期入所】

新規の利用者は増えてきました。港区以外の利用者も少しずつ増えてきております。しかし、障害児の利用者が多く、ほぼ1泊2日、金・土・日の利用がほとんどなので障害者の利用増加の為、営業活動を行い新規利用者、ロングで利用してもらえ方の獲得を行ってまいります。

【その他】

当施設は港区立ということもあり、家族の要望などが多い傾向があります。もっと港区と連携を密に行い、対処してまいります。

令和3年度事業報告（施設名:港区立障害者支援ホーム南麻布/相談支援）

事業所名	目標 / 実績	稼働率
計画 (特定相談支援・障害児相談支援)	135 / 92	68%
モニタリング (特定相談支援・障害児相談支援)	279 / 190	68%

事業の概要

【運営概要】

令和2年3月に開所し、約2年が経過いたしました。港区在住の障害児者に対し、障害福祉サービス利用に伴う計画作成や相談対応等実施しております。令和3年度末時点で、61名の契約者を相談支援専門員1名で対応しております。

他相談事業所移行からの困難ケースも多く、毎月様々な課題が発生しその都度必要支援へと繋げており、今後も継続する見込みです。

【課題】

令和3年度4月当初、97名の契約者を相談支援専門員2名で対応開始しました。困難ケースを含む新規相談は徐々に増加をし6月時点で102名の契約者対応となりましたが、6月より相談支援専門員(管理者)1名の欠勤が続き、相談支援専門員1名での対応継続となりました。9月に港区障害福祉課計らいで、30名の利用者様を他相談事業所・児童発達支援センターへと移行することとなり、当面新規利用者受入れ休止をし、利用終了(転居・サービス終了)者児もあり、現在61名利用者の相談対応となります。

今年度の目標設定では相談支援専門員増員、伴い利用者増量を予定しての設定としており、9月に利用者数大幅減となった事から全体請求数も減り、実績につきましては目標に至らず終了しました。次年度に向け、事業所体制・支援体制整備等の課題に対し取り組んでまいります。

【課題解決のための対策】

令和3年度当初と年度末を比較し、相談支援専門員1名対応、利用者数大幅減少と大きく変化が有りました。1名で利用者102名対応時期のモニタリング実績は目標達成しましたが、利用者数減少からは目標数下回りとなりました。

利用者・関係機関との関係を築く中で利用者の困り事把握ができ改善対応を行う事で、定期請求以外での臨時・加算請求は毎月発生でき、今後も利用者・関係機関との丁寧な関わりを密にし増収へと繋げて参ります。相談支援専門員増員後には新規利用者受入れを予定しております。相談支援専門員が利用者一人一人と丁寧な関わりを持つ事で、対応=臨時増収となり実績達成は想定されます。よりきめ細やかな支援が出来る職員体制整備となるよう、相談支援専門員それぞれの特性を考慮しての担当利用者(人数・障害種別)設定に留意をし、全体では障害特性や年齢等に偏りのない支援が提供できるよう努めます。